

## SaaS

### ● SaaS (Software as a Service) とは？

「SaaS (Software as a Service)」は「サービスとしてのソフトウェア」と訳されます。これはソフトウェアの提供形態の1つで、インターネットを利用してアプリケーションをオンデマンドで提供する形をとっています。アプリケーションは事業者のサーバにインストールされており、ユーザーはネットワークでこれを利用します。SaaSを利用するメリットは幾つかあります。まずコスト面では、パッケージ購入ではなく月額利用料金を支払う形になるため、初期コストが少なく済みます。運用面では、インストールの手間が無いのは勿論、システムメンテナンスなども自社で行う必要がなく、運用管理のコストも軽減されます。又、将来的にアップグレードが必要になった場合でもサーバ側でアップグレードが行われればユーザーは特に作業することなく最新の環境を利用することが出来るのです。サービス内容だけを見た場合、2000年頃に普及しはじめていた「ASP (Application Service Provider)」と同等のものというイメージがあるでしょう。実際、アプリケーション提供企業の中には、自社でのASPサービスを展開しつつもSaaSで同等機能を提供する、というように両面で展開している企業も存在します。サーバに用意されたアプリケーションをネットワーク経由で利用する、という基礎的な要件だけならば、両者は殆ど同等であるといえます。

### ● ASPとSaaS

では、なぜ表現の仕方が違うのか、これには大きな理由があります。1つ目は当時普及すると思われていたASPが思う程振るわなかったという事です。両者はネットワークを利用することがサービスを提供する上で要なのですが、ASPが目立っていた時代ではネットワークの使用料金がアプリケーションソフトの利用料金よりも高くなってしまふことが多かったのです。現在はブロードバンドの普及を受け、ネットワークコストは大幅にダウンしています。当時と比べASPを利用する上で最大の弱点であったランニングコストに大きな差が出ていることになるのです。又ASPの弱点として当時のシステム管理者や決定者の常識にそぐわなかった節もあります。業務用システムは自社で構築する、またはパッケージソフトを購入するのが当たり前の考え方があった中で、月額いくら、という形で支払いを行うASPIは、その料金の安さやシステムをレンタルするという感覚そのものが受け入れられづらかったという問題がありました。

2つ目は、アプリケーションを提供する事業者のシステム形態にも大きな変化が生まれているということです。ASPの時代はユーザーにサービスを提供する場合、物理的なサーバを個別に用意する「シングルテナント型」が主流でした。現在では、物理的に同じサーバを複数のユーザーで共有する「マルチテナント型」に変わっています。サーバの資源を利用状況に応じて、共有しているユーザー間で動的に割り振ることでピーク時の負荷を吸収することができるこの方法は、運用コストの低減を図ることができます。また、ユーザーのために新規にサーバを用意する必要がないため、短期間での導入も可能です。ここ数年で注目を浴びているSaaSとASPはこのようにメリット・デメリットの部分や、アプリケーションの配布形態が大きく違うという理由から、異なる呼称がついたのだと受け取ることが出来ます。

### ● SaaSの将来

ASPが再注目されたり、SaaSが盛り上がっている背景には幾つかの要因があります。まず、先にあげたインフラの充実があります。ブロードバンドが手軽に利用できるようになったため、企業内でもVPNなどを利用してシステムのWebサービス化などが進められました。もう1つの大きなきっかけは、個人情報保護法の施行です。従来は情報を扱うためのポリシーなどが設定されておらず、とにかく自社内で抱え込むことで対処している企業が多くありました。しかし個人情報保護法の施行により、明確な取り扱い基準が示されました。それによって、自社で体制を整備するよりも信頼できる業者にアウトソーシングした方が安全なケースもあるということが認識されました。

一方で、未だ根強い抵抗感もあります。先にあげたように、システムは購入するものだという考えは現在でも強くあります。しかし、今後SaaSが普及する可能性は高いと考えられています。ユーザー企業側から見た場合、システム開発費用が不要になるだけでなく、逐次最新の状態にアップデートされるSaaSならば、一定年数ごとに必要となるアップグレードのための開発費やそのインストール作業といったものも不要になります。また、多くのアプリケーションはWebサービス化され、SOAに対応します。そのため別事業者から提供されるサービス同士や、既存の社内システムと組み合わせでの利用もしやすく、事業の変化に対応しやすくなります。また一方で、サービス提供側にもメリットがあります。サービスのアップグレード時にはあらかじめパッケージ販売を行う必要がないため、旧バージョンのサポートをいつまでも行う必要も、インストールサポートの必要もありません。さらに、開発会社は提供会社のブランドを利用することができます。中小の開発会社は販売能力や広報力の点で大規模会社に劣る部分がありますが、SaaSのシステムを提供している大規模会社のシステムに自社開発物を投入することで、それを補うことが可能なのです。企業がIT化を進めてゆく上で必要になるアプリケーションは所有するものから、使用するものへと変化を続けています。導入時の負担だけでなく、運用・管理コストも削減できるSaaSはこれからますます注目されていくことでしょう。(^^)/

アイ・シー・キューブでは、企業の競争力を高め、その成長と繁栄を支援する為の情報を提供する中小企業向けのセミナーを多数主催しています。是非ご参加頂きビジネスにお役立て下さい。

株式会社アイ・シー・キューブ

〒310-0021  
水戸市南町3-3-43小林ビル5F  
TEL：029-228-0116  
FAX：029-233-0882  
URL：http://www.ic3.co.jp/  
mail：info@ic3.co.jp

FAX版IC3通信を停止されたい方は、お手数ですがこの原稿を、  
**FAX (029) 233-0882**  
までFAXしてください。

( )  
のFAXを停止して下さい。